

12課

12月17日

聖書の世界観



安息日午後 12月10日

暗唱聖句

どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。(1テサロニケ5:23、新共同訳)

どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。(1テサロニケ5:23、口語訳)

今週の聖句

ルカ2:52、マタイ4:23、1コリント6:19、20、詩編24:3、4、使徒言行録8:4~24、1ヨハネ3:1~3

今週のテーマ

ヨハネの黙示録は、キリストの再臨前に起きる二つの大きな「グローバル化」について述べています。黙示録13章には、「全地」(黙13:3)が、海から上って来る獣に驚き従う(同13:7、8、12、16)「謬謬」のグローバル化が描かれており、14章には、「永遠の福音」が「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」(同14:6、7)に告げ知らされる「真理」のグローバル化が強調されています。「困難な時期」(2テモ3:1)に、「風のように変わりやすい教えに、もてあそばれ」(エフェ4:14)、人々は「真理から耳を背け、作り話の方にそれて行く」(2テモ4:4)ようになります。「サタンは、霊魂不滅と日曜日の神聖化という2つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心靈術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す」(『希望への光』1885ページ、『各時代の争闘』下巻350ページ)。

これらの最後の出来事が幕を開けるまで、私たちは与えられているすべての真理を信じる信仰に堅く立ち続けねばなりません。その真理には人間と死の本質も含まれます。私たちは、キリストが栄光のうちにおいでになる時に備えるために、聖霊の導きを求めなければなりません。

問1 ルカ2:52を読んでください。この聖句には、イエスの成長に関するどのような四つの側面が示されていますか。

イエスは完全な人間でした。そしてその成長は人間の存在の基本的な側面を含んでいました。ルカ2:52によれば、「イエスは知恵が増し〔知的〕、背丈も伸び〔身体的〕、神と〔靈的〕人に〔社会的に〕愛された」とあります。「イエスの知能は活発で鋭く、年齢以上に思慮と知恵があった。しかしその品性は均整がとれて美しかった。心とからだの能力は、幼年時の法則に調和してだんだんに発達した。

子供としてイエスは、特にやさしい性質をあらわされた。彼はいつでも人に仕えるためによるこんで手を貸された。イエスは何ものにもさまたげられない忍耐力と、決して正直さを犠牲にするようなことのない真実さをあらわされた。主義においては岩のように固かったが、その生活には無私の親切心という美德があらわれていた」（『希望への光』696ページ、『各時代の希望』上巻59、60ページ）。

問2 マタイ4:23を読んでください。イエスの宣教の三つの側面——教え、宣教、いやし——を、今日どのようにして効果的に行うことができるでしょうか。

もし私たちが、人間は不可分の統合体であることを理解するなら、宗教を靈的なことがらだけに限定することはできません。人間の真理は、実際に私たちの存在全体に関わるものであり、私たちの全生涯におよぶものであり、私たちの生命のすべての側面を含みます。私たちの身体的、靈的要素はあまりに強く統合しているので、切り離すことはできないのです。そして、私たちは、天からおいでになったイエスのみ姿に等しくなることはできませんが、神の恵みによってイエスに倣うことはできます。なぜなら、人のなかに創造主の御像を回復すること、人を創造当初の完全な姿に回復すること、人の体と心と魂の発達を促進すること——これが贖いの働きであり、神が神の民に求めておられる再臨の備えのプロセスの一部なのです。

私たちは、自分をイエスと比べると、容易にその違いに失望します。十字架とその意味に目を注ぐことによって、私たちはどのようにその失望に陥ることから守られるでしょうか。

不死の魂を宿す死すべき肉体という二元論は、人間の体についてさまざまな理論を生み出してきました。例えば古代ギリシアの哲学者たちは、人間の体は魂の牢獄であり、魂は死によって自由になると考えました。この異教思想を受け継いで、今日多くのクリスチャンが、肉体は一時的な魂の住みかであり、復活において再び肉体とひとつになると信じます。逆に、汎神論者は人間の体は神聖であり、神と宇宙は一体であると信じます。万物は神であり、人間の体も普遍的な神の一部であると考えます。このように相反する理論に囲まれているからこそ、私たちは人間の本質についての聖書の教えに堅く立つ必要があるのです。

問3 1コリント6:19、20と同10:31を読んでください。私たちの体は「神殿」であり、「聖霊の宮」(口語訳)であるという考えは、どのように私たちの生活スタイルを積極的に変えるのでしょうか。

神は、御自分のかたちにかたどってアダムとエバを創造されました(創1:26、27)。この事実は、彼らの品性だけでなく、身体的な面にも反映されていました。その「かたち」は、罪の存在によって損なわれ、隠されたために、贖いの働きによって人間を当初の状態に回復する必要がありました。その働きには、命の木から取って食べることでできない人間の身体的な回復も含まれていました。

この回復は人の一生にわたるプロセスであり、キリストがおいでになる時、すなわち、「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになる」(1コリ15:53) ときのみ完結するのです。

使徒ヨハネは友人ガイオに宛てて次のように書きました。「愛する者よ、あなたの魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています」(3ヨハ2)。

もし私たちが、人間は不可分の統一体であると認め、宗教が人間の生命のすべての面におよぶものであるなら、身体を健康を宗教的な義務として考える必要があります。私たちは、「食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」(1コリ10:31) との靈感を受けた原則に従うべきです。しかし私たちはなおも、善人が最善を尽くしながらも、人間の罪の結果とその罪に汚された世界に生きていることを忘れてはなりません。ですから、私たちは神に信頼して最善を尽くし、その結果は神にゆだねるべきなのです。

ある人たちは、環境を変えることによって人は変わると信じています。確かに、私たちは、誘惑に陥りやすい場所や状況を避けるべきです（詩編1:1、箴言5:1~8）。しかし誘惑や罪の問題は、私たち自身の心が作り変えられることによるのみ解決するのです。キリストはこの問題の核心に触れて次のように言われました。「中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫^{かんいん}、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである」（マコ7:21~23）。つまり、私たちの行いが変わるためには、私たちの心が変わらなければならないのです。

問4 1コリント2:16、詩編24:3、4、ローマ12:2、フィリピ4:8、コロサイ3:2を読んでください。「キリストの思い」（1コリ2:16）を抱くとはどんな意味でしょうか。

主は「新しい契約」（エレ31:31~33をヘブ8:8~10、同10:16と比較）として、神の民の胸の中に律法を授け、彼らの心にそれを記すと約束されました。それゆえに、山上の説教でキリストが、神の戒めの意味を心の思いと意図のレベルにまで広め、深められたことも（マタ5:17~48参照）驚くにはおよびません。私たちは、神の造り変える恵みによるのみ誘惑に勝利することができるのです。さらに心の思いと意図のレベルにおいても、罪の思いを退けるために、私たちはこの約束〔新しい契約〕を自分のものとしなければならないのです。

しかしこの世では、私たちがどれほど信心深くあろうと、完全な罪のない状態に到達することはできません。しかし私たちはキリストのうちにあるなら、キリストの義によって完全に覆われるのです。私たちは**まだ完全ではありませんが、キリストにあってすでに完全であると見なされています**（フィリ3:12~15）。「わたしたちがキリストと一つになるとき、わたしたちはキリストの心を持つようになります。純潔と愛がその品性から輝き出て、謙遜と真実がその生活を支配します。そうしてその顔の表情までも変えられます。魂に宿るキリストが人を造り変える力を行使されるとき、内においてその人を治める平和と愛が表に現れ、それを証しするのです」（『セレクトッド・メッセージ』第1巻337ページ、英文）。

イエスに従順であるために、信仰によって日々委ね、日々自己に死に、日々主への献身を新たにすれば、私たちの人生は造り変えられるのです。

聖霊は、私たちの心に神の愛を注ぎ（ロマ5：5）、真の救いの経験へと導き（ヨハ16：7～11）、すべての真理へと導き（同16：13）、福音の使命を完結するために権能を授けてくださる（使徒1：8）力強い神の代理人です。なぜなら、人間を墮落させようとするサタンの働きを打ち破るのは聖霊ですから、サタンがあらゆる方法で聖霊の性質と働きについての私たちの理解をゆがめようとしても驚くにはおよびません。聖霊の人格を拒む人々がいる一方で、人を造り変える力における聖霊の賜物を強調する人々もいます。

問5 使徒言行録8：4～24を読んでください。サマリヤの魔術師シモンは、御霊によって生まれ変わることなしに聖霊の賜物を「受ける」ことを望みました。今日も、これとまったく同じ態度が見られないでしょうか。

神の子らとは、聖霊に導かれて（ロマ8：14）、神の御言葉のすべての真理（ヨハ16：13、同17：17）に導かれる者たちです。イエスははっきりと警告されました。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ』」（マタ7：21～23）。聖霊は、神の御言葉から離れるように導かれることは決してありません。むしろ、御言葉と一致するように私たちを導かれるのです。

私たちをすべての真理に導いてくださる聖霊が、私たちが他の人々を驚くべき真理に導くための権能を授けてくださいます（マタ28：18～20、使徒1：8）。与えられた神聖な使命を果たすために、聖霊の特別な助けが用意されています。ですから私たちは、朝ごとに主の前にひざまずき、神への献身を新たにしなければなりません。もし私たちがそうするなら、神は私たちにリバイバルと清めの力を持つ聖霊の臨在をお許しになられます。

私たちは日々、正しいことを行い、間違っていることを避けるために、意識的な選択を行い、聖霊の導きに心を開く必要があります。神が与えてくださる力によって、私たちが本来あるべき姿で生きることを求めることによってのみ、神が約束された聖霊の力が、私たちの人生の中に表されるのです。

私たちはあまりに多くの、人間の欲求を満たすために作られた人工物と目を奪う娯楽が作りだす熱狂的な世界に生きています。うっかりするとこれらの物が私たちの時間をすべて奪い、人生の優先順位を狂わせます。これは、グローバルなコンピュータ・ネットワーク社会が生んだただの副産物ではありません。クリスチャンたちは、多かれ少なかれ、どの時代においても、人生で本当に価値のあるものから引き離そうとするサタンを試みに警戒していなければなりません。

もし不注意でいるなら、誰でも主を見失い、世俗的で肉的なもの、最終的には私たちを決して満足させることはできないもの、そして、結局は私たちを霊的な滅びへと誘う世俗的なものに心を奪われる危険にさらされるのです。

問6 2ペトロ3:14と1ヨハネ3:1~3を読んでください。再臨に「備えつつある」と、「備えている」との間にはどんな違いがあるでしょうか。

しばしば、再臨に「備えつつある」という考えは、再臨を先延ばしにしている言いわけになります。この考えは容易に、悪い僕のように、私たちに「主人は帰りがおそいと」(マタ24:48、口語訳) 思わせます。

問7 詩編95:7、8、ヘブライ3:7、8、15、同4:7を読んでください。これらの聖句は、今、用意することについて、何とっていますか。

聖書の見地から見れば、救いの時は常に「今日」であって決して明日ではありません(詩編95:7、8、ヘブ3:7、8、15、同4、7)。さらに、大きな回心の経験がなければ、私たちは今と同じであり続けるのです。時間の経過が、回心させるわけではありません。人は、絶えず恵みのうちに成長し、信仰によって前進しない限り、その〔人のうちにある罪の〕傾向は強まり、かたくなになり、懐疑的で皮肉な考えに陥り、不信仰になる傾向があります。

このように考えると、私たちの1日は人生のひな型であると言えます。ですから、神の恵みによって、私たちは将来の計画を立てるべきですが、イエスの再臨に備えて日々を過ごすべきなのです。なぜなら、この不確実な世にあって、今日があなたの最後の日になるかもしれないからです。

あなたは今日がイエスのおいでになる日であるなら、どのような備えをしますか。クラスで話し合ってみましょう。

参考資料として、『ミニストリー・オブ・ヒーリング』第18章「精神療法」を読んでください。

「日々信仰の人生を生きなさい。悩みの時を思って心配したり、嘆いたりしてはなりません。だから、悩みの時に備えていなさい。『私は大いなる試みの日に立てるだろうか』と考え続けてはなりません。あなたは現在を、今日という日だけを生きるのです。明日はあなたのものではないからです。あなたは今日、自己に勝利するのです。今日、祈りの人生を生きるのです。今日、信仰の戦いを戦うのです。今日、神があなたを祝福してくださると信じるのです。そうしてあなたが暗黒と不信に勝利するなら、あなたは主人の求めに応え、そしてあなたの周囲の人々の祝福になるのです」(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1887年10月20日号)。

「主はまもなくおいでになります。心穏やかに、平安に満たされて、主にお目にかかることができるように、わたしたちは備えをしなければなりません。まず、周りの人たちに福音の光を伝える業に全身全霊を持って、できる限りの力を尽くす決心を今こそなすべきではないでしょうか。悲愴な思いではなく、喜びにあふれた快活な雰囲気^{あま}で尊い働きをなしましょう。そのためにはいつも、わたしたちの前にイエスを置くことです。……備えつつ、主の再臨を待ちましょう。主にお目にかかることができ、あがなわれた者として歓迎されるとは、何と光栄なことでしょうか。すでに長きにわたり、わたしたちは待ち続けています。しかし、ここで信仰を弱めさせたりしてはなりません。麗しい主なる王にお目にかかることさえできれば、わたしたちは永遠にわたって祝福されるのです。わたしは『天のふるさとを目指して!』と、声高らかに叫ばなければならない衝動にかられます。今、わたしたちは、あがなわれた者を天のふるさ^{あま}とに招き入れるために栄光の主がおいでくださるその瞬間に向かって、一步一步近づきつつあるのです」(『天つ家郷』238、239ページ)。

話し合いのための質問

- ① クラスで、木曜日の最後の質問の答えについて話し合ってみましょう。あなたは、備えができていますでしょうか。どのようにしてそれがわかりますか。自己過信に陥らずに、かつ、確信を持つことはできるでしょうか。